

## ワーク・ライフ・バランス社会の実現度指標の考え方（案）

## 1. ワーク・ライフ・バランス社会の実現度指標とは

ワーク・ライフ・バランス社会の実現度指標とは、仕事、家庭生活、地域生活等のいくつかの視点から、我が国の社会全体でみたワーク・ライフ・バランスの実現の状況及び官民の取組状況を数量的に示し、評価するものである。

なお、ワーク・ライフ・バランスとは、「老若男女誰もが、仕事、家庭生活、地域生活、個人の自己啓発など、様々な活動について、自ら希望するバランスで展開できる状態」と定義する。

## 2. ワーク・ライフ・バランス社会の実現度指標の基本的な考え方

## (1) 目的

我が国の社会全体でみたワーク・ライフ・バランスの実現の状況及び官民の取組状況について数量的に測り、分析・評価することにより、ワーク・ライフ・バランス社会の実現の阻害要因や、取り組むべき政策及び政策の優先度を把握することを目的とする。また、ワーク・ライフ・バランス社会の考え方やその現状を国民一般に広く普及させるためにも用いる。

## (2) ワーク・ライフ・バランス実現に向けた社会全体の方向性

個人の希望や事情によってワークとライフのバランスの形は多様であり、自ら希望するバランスを決められるものではあるが、働く人々全体でみると、現状の働き方がワーク・ライフ・バランスの妨げとなっていることが多いと認識されている。

このため、個人の総体としての社会全体では、柔軟かつ過重な負担とならない働き方が多様な主体により実現され、家庭生活や地域生活など仕事以外の様々な活動がより充実し、かつ、健康・休養が確保されることとともに、ワーク・ライフ・バランス社会の実現に向けた官民の取組が進展することを、ワーク・ライフ・バランス社会の実現度が高まったものと捉える。

## (3) 活動分野の設定

個人の総体でみたワーク・ライフ・バランスの実現の状況については、活動分野として「仕事・働き方」、「家庭生活」、「地域活動」、「学習や趣味・娯楽等」及び「健康・休養」を設定し、分野毎に状況を把

握する。また、ワーク・ライフ・バランスの官民の取組については、分野を設けず、全体として把握することとする。

#### (4) 実現度の捉え方

以下のことをもって、ワーク・ライフ・バランスの実現度が高まるものと捉える。

- ・ 個人が希望する形で様々な活動を選択し、その結果、個人の希望と現実との間の乖離が縮まること(注)
- ・ 個人が希望する形で様々な活動を選択することができるように制度や環境の整備がなされること

なお、指標の評価については、ワーク・ライフ・バランス社会の実現に向けた進捗度を基本とするが、一部の指標については達成度を計測する。

(注) 作業段階に当たっては、個人の希望と現実との間の乖離が直接的に測れない場合は、個人の意識や希望等からワーク・ライフ・バランスの実現として望ましい方向性を把握した上で実現度を捉えるものとする。

(参考) 指標作成の全体体系図

## 個人の総体でみた実現指標の5分野毎の考え方

### 仕事・働き方

仕事の仕事以外の活動の充実を妨げず、人生の段階に応じた柔軟かつ過重な負担とならない多様な働き方を個人が実現しているか。

なお、柔軟かつ過重な負担とならない多様な働き方を選択できることがワーク・ライフ・バランスの実現に資するとの基本的な認識を持ちつつ、待遇面で不利な扱いを受けたり、また、経済的な安定性が損なわれないかという観点も考慮する。

- 1 希望する働き方を実現する機会は設けられているか  
人生の段階に応じた柔軟かつ過重な負担とならない多様な働き方を実現するための機会は設けられているか。
- 2 柔軟に働き方を選択できるか  
個人が人生の段階における希望に応じて、例えば時間や場所の観点から柔軟に働き方を選択できているか。また、それらの選択肢の待遇面での公平性は保たれているか。
- 3 多様な主体が希望に応じて働けるか  
女性や高齢者等も含めた多様な主体が希望に応じて働けているか。育児・介護等を機に止むを得ず仕事を辞めていないか。また、希望する人が再就職できているか。
- 4 過重な負担となったり、生活が維持できないような働き方をしていないか  
仕事のための拘束時間が過度に長く、仕事以外の活動を著しく妨げたり健康を損なうような働き方をしたり、経済的な安定性が損なわれたりしていないか。

### 家庭生活

子育てや介護など家庭の事情に応じて、男女が希望する形で充実した家庭生活を送れているか。また、家庭内での男女の過ごし方はどうか。

- 1 家庭で過ごす時間はとれているか  
仕事をしながら、子育てや介護など家庭の事情に応じて希望する形で家

庭で過ごす時間がとれているか。

2 家庭内での男女の家事・育児等への関わり方はどうか

家庭責任は男女がともに担うものであるが、実際の家庭内での男女の過ごし方はどうか。男性はどのくらい家事・育児等に関わっているか。

地域活動

自ら希望するバランスで、地域活動等に参加する時間を確保できているか。働く人々も含め多様な主体が地域活動へ参加しているか。

1 希望する人が地域活動等に参加できているか

自ら希望するバランスで、地域活動や近所とのつきあい・交流等ができる時間を確保できているか。

2 多様な主体が地域活動に参加できているか

働く人々も含め多様な主体が、地域活動に参加できているか。

学習や趣味・娯楽等

自ら希望するバランスで、学習や趣味・娯楽等のための時間を確保できているか。また、多様な主体が学習や趣味・娯楽等の活動を行っているか。

1 学習や趣味・娯楽等のための時間はあるか

働きながら、または就業を中断するなどして自己啓発等の学習をしたい人が、自ら希望するバランスで実現できているか。また、趣味・娯楽など自分の楽しみのための時間を確保できているか。

2 多様な主体が学習や趣味・娯楽等を行っているか

多様な主体が、学習や趣味・娯楽等の活動を行っているか。

健康・休養

バランスのよい働き方をして休養が十分に取れ、疲労の蓄積等がなく心身ともに健康に過ごせているか。

1 仕事を通じて心身の健康を害することはないか

仕事が過重な負担となることで、精神的に悪影響を与えたり健康障害が起きるなど、心身の健康を害する状況は生じていないか。

2 休養のための時間はあるか

健康を維持するための基本的な前提条件として、個人がゆったりと休養して仕事等による疲労を回復する時間が確保できているか。